

青山學院女子短期大學 紀要 総目次

1952年－2019年

第1輯(1952年7月)

紀要の創刊を祝して	豊田 實
紀要の創刊に際して	向坊 長英
平安朝以前に於ける辞書	川瀬 一馬
近世初頭に於ける前期的資本の諸形態[その一] — (南独フッガー家の場合) —	保坂 榮一
The Blessed Damozel「昇天聖女」	向山 泰子
The Failure of Modernism in Angel Clare (A Sidelight on Hardy's "Tess of the D'Urbervilles")	菊池 裕
食肉の消化率に及ぼす加熱の影響 — 研究の準備 — パンクレアチンの製法に就いて	野村萬千代

第2輯(1953年9月)

ウエスレイ・メソジズムの本質(一) 歴史的基督教の綜観者・ウエスレイ	向坊 長英
和泉式部日記は藤原俊成の作	川瀬 一馬
「 ^{ビューリタン} 清教徒的」商人論	保坂 榮一
E. A. Poeの詩に現はれた死と愛の連合について Death Associated with Love as Expressed in Poe's poetical Works	江口 裕子

第3輯(1954年11月)

記念号発刊の辞	向坊 長英
ワーズワースの詩『靈魂不滅の暗示』 — その詩と註解 —	豊田 實
ウエスレイ・メソジズムの本質(二)	向坊 長英
中世における金言集について	川瀬 一馬
齊明天皇の業績	馬越 宮
芥川龍之介と古典	中野 博雄
ギリシヤ神話とギリシヤ人の特質 — 英文学研究の一道程として —	江口 裕子
ミルトンの女性観	西島 正

訳詩三篇	菊地 裕
Studies on the Denaturation of Proteins (I)	
— with regard to the Iodination of Proteins —	島崎 通夫 浅野 敬子

第4輯 (1955年11月)

歴史的実存の問題 — 宗教的実存による歴史的実存の基礎付けへの試み —	小田島嘉久
金春大夫家系図考 — 喜勝菟蓮以後 —	川瀬 一馬
与謝野鉄幹の詩	中野 博雄
Methylene Blue染布の耐光堅牢度について (その一)	
— 染色品の耐光堅牢度に関する研究第一報 —	深谷 浩 柳江 智子

第5輯 (1956年3月)

歴史的実存の問題 (其の二)	
— 宗教的実存による歴史的実存の基礎付けへの試み —	小田島嘉久
新札往来と尺素往来 — 古往来の研究 (その一) —	川瀬 一馬
A PLAY OF PASSION	向山 泰子

第6輯 (1956年11月)

ウエスレイ・メソジズムの本質 (三) 第四章 ウエスレイとメソジスト教会	向坊 長英
歴史的実存の問題 (其の三)	
— 宗教的実存による歴史的実存の基礎付けへの試み —	小田島嘉久
金春家庶流系図考	川瀬 一馬
ヘミングウェイと女性	松宮 薫子

第7輯 (1957年3月)

快言抄について — 古往来の研究 (その二) —	川瀬 一馬
コールリッジ「老水夫のうた」に関する一考察	

— 一七九八年版と一八一七年版との比較 —
織布の二次元的変形 — 直交異方性板としての取扱い —

石田加壽子
深谷 浩

第8輯 (1957年11月)

中世イギリス牧羊業の展開

保坂 榮一

色葉字類抄「辞字」考

青木 孝

中務内侍日記の鎌倉鈔本（断簡）に就いて

川瀬 一馬

バイロン作『サダナベラス』の歴史的背景

向山 泰子

蛋白質変性に関する研究（二）

沃素化蛋白質の紫外部吸収に及ぼす加熱の影響について

島崎 通夫

第9輯 (1958年3月)

観阿弥の申楽

川瀬 一馬

芥川龍之介と漱石・鷗外

中野 博雄

「ハムレット」についての一考察

西島 正

剪断変形による織布の挫屈（第一報）

深谷 浩

第10輯 (1958年11月)

第十輯記念号の発刊に際して

向坊 長英

静嘉堂文庫蔵山田本古事記考 — 鈴鹿登本・猪熊本との関係 —

青木 孝

竹取物語が意味するもの

馬越 宮

中世における辞書の二三について — 附、大永四年鈔本金句集 —

川瀬 一馬

ジェイムズ・ジョイスの長編小説における原罪の意識と母性像

町野 静雄

スタインバックの一考察 — 彼のヒューマニズムと自然描写について —

松宮 薫子

蛋白質変性に関する研究Ⅲ

— 尿素存在下における Egg Albumin の加熱変化について —

島崎 通夫

凝視点と仮現運動

米澤 俊治

第11輯 (1959年6月)

「桂離宮」管見 附、佐野紹益の贍草のこと	川瀬 一馬
古事記に見える助詞にの古用法について	青木 孝
漱石と節・鏡花	中野 博雄
エドモンド・スペンサーの詩にあらわれたる愛の概念、その内容と釈解	松山 正男
バイロン作「サダナベラス」の人物	向山 泰子

第12輯 (1959年11月)

紀要記念号発刊に際して	古坂 崑城
紀要第十二輯の発刊に寄せて	向坊 長英
学問(科学及哲学)と信仰との関係についての考察(上)	小田島嘉久
桂庵和尚家法倭点について	川瀬 一馬
源氏物語竹川の巻試論 — その異質性について —	馬越 宮
フランクリンの「航海日誌」に就ての一考察	黒野 清
ヴィクトリア朝の英文学にあらわれたる愛の概念 — 「女性崇拜」とその社会的背景 —	松山 正男
長野県における子守教育(一) 日本における義務教育制度の歴史的考察 — 一九〇〇年～一九一五年	林 三平
知覚におけるいわゆる価値に関する実験的研究(その一)	米澤 俊治
骨化作用における糖類の影響について	野村萬千代
ビタミンの自己酸化に及ぼす蛋白質(Egg Albumin)の影響について	島崎 通夫
	加藤 福子

第13輯 (1960年7月)

大漢和辞典の完刊に際して	諸橋 轍次
本阿弥光悦の小倉山荘色紙和歌(百人一首)	川瀬 一馬
「秋」(芥川竜之介)に対する諸家の批評	中野 博雄
高校卒業生女子の計量値処理能力 — 家庭生活と計量・第1報 —	深谷 浩
	松尾登美子

第14輯 (1960年11月)

荒巻教授近影 荒巻教授略歴	
十周年記念号に寄せて	大木金次郎
記念号発刊に寄せて	幸田 三郎
学問 (科学及哲学) と信仰との関係についての考察 (下)	小田島嘉久
日本における義務教育制度の歴史的考察 (二) — 一九〇〇年～一九一五年	
— 学齢児童保護対策と製糸工場特別教授を中心として —	林 三平
庭訓往来の仮名抄について — 古往来の研究 (その三) —	川瀬 一馬
竜門文庫蔵 平瀬本古事記考 — 前田家本系統本の系統と価値 —	青木 孝
夕顔試論	馬越 宮
「オセロウ」について	西島 正
T・S・エリオットにおける象徴主義	町野 静雄
カーライルのシェイクスピア崇敬	菊地 裕
ウィラ・キャザーについての覚書	松宮 薫子
青山学院女子学生の最近約10年間における栄養摂取量の推移	
— 食品群別による —	野村萬千代
Trypsin の加熱変性と Sodiumdodecylsulfate の影響	島崎 通夫
目分量の精度 (その一) — 家庭生活と計量第二報 —	深谷 浩
	松尾登美子
R・L・スティーヴンスンの文体的特徴 — 初期の二篇を中心として —	荒牧 鉄

第15輯 (1961年11月)

源氏物語の愛欲の構想について — 前編第二部を中心として —	馬越 宮
多和文庫蔵 曼殊院本古事記考 — 鈴鹿登本・山田本・輪王寺本との関係 —	青木 孝
古今伝授について — 細川幽斎所伝の切紙書類を中心として —	川瀬 一馬
「玄鶴山房」の批評 (一)	中野 博雄
楳とる詩人 (第一部) — 小諸なるスコットランド —	青木 範夫
狂気の美学 — テニスの独白詩『モード』について —	松山 正男
「限界哲学」(Grenzphilosophie) 試論	小田島嘉久
馬越教授の還暦に当って	川瀬 一馬
過ぎ来し方	馬越 宮
家庭における計量の実態 — 家庭生活と計量・第三報 —	深谷 浩
	松尾登美子

第16輯 (1962年11月)

観阿弥の物真似論	川瀬 一馬
竜門文庫蔵 鴨本古事記考 — 延佳校本書入れの吟味とその意義 —	青木 孝
グレアム・グリーン論	町野 静雄
鋏とる詩人 (第二部) — 都のかたをながむれば —	青木 範夫
Women Close to Hemingway	松宮 薫子
A Study of Lord Byron	
— Oriental Influences on Setting of His Early Romances —	向山 泰子
Dibenzoyl thiamine の定量法について	西田 壽美
目分量の精度 (第二報) — 家庭生活と計量・第四報 —	深谷 浩
	中嶋登美子

第17輯 (1963年11月)

日本印刷文化史上における菱川師宣	川瀬 一馬
色葉字類抄量字門語彙の出入について — 三巻本と十巻本の比較 —	青木 孝
中村ヨシ教授の御退任に際して	島崎 通夫
サリンジャーの二つの短篇小説について	松宮 薫子
強化米の水洗に関する研究	西田 壽美
目分量の精度 (第三報) — 家庭生活と計量・第五報 —	深谷 浩
	中嶋登美子

第18輯 (1964年11月)

日本印刷文化と書体並びに料紙	川瀬 一馬
吾妻鏡に見える謙譲の「令 (シム)」	青木 孝
改訂幼稚園教育要領の特質	林 三平
教育的スロイドの成立と発展について	松崎 巖
芥川竜之介の言及したカーライルの詩的精神	菊地 裕
Daniel Defoe の小説二篇について	坂井 晴彦
強化食の研究 — カルシウム存在下における製パン工程中の B_1 の変化について —	西田 壽美
トリプシンの尿素変性についての一考察 — 活性の回復に及ぼす沃素の影響 —	島崎 通夫

第19輯 (1965年11月)

開学十五周年記念号によせて	大木金次郎
開学十五周年記念号の発刊に際して	幸田 三郎
学問論(覚え書き)	小田島嘉久
夢窓国師と庭園	川瀬 一馬
万葉集“篇外”用字法の一考察 — 以(もって)字の用法について	青木 孝
国家体制と教育政策 — 明治教育政策史覚書	林 三平
アテナイにおける在留外人の訴訟能力	馬場 恵二
北欧三国における統一学校制度について	松崎 巖
Lovelace登場 — Clarissa Harloweの一面	坂井 晴彦

第20輯 (1966年11月)

平安朝における政治思想	川瀬 一馬
「吾妻鏡」寛永板本付訓清濁考 — 特異な読み癖を中心として —	青木 孝
読書人の育った環境 — 内田魯庵伝ノート(一) —	野村 喬
スウェーデン教育に関する理解と誤解 — 覚え書	松崎 巖
Tom Jones におけるFieldingの知的コントロールについて	坂井 晴彦
死への誘い — トルーマン・カポーティの二つの短編をめぐって —	稲澤 秀夫
味と無機成分について — だし汁中の無機成分(第一報) —	西田 壽美
	熊澤 光子
不織布の汚染性・洗浄性について(1)	阿部 幸子
	首藤 晋子

第21輯 (1967年11月)

吾妻鏡に見える「御」(ギョ)字の特殊用法	
—「たまふ」(尊敬補助動詞)に當てるもの—	青木 孝
貴嶺問答について — 古往來の研究(その四) —	川瀬 一馬
光源氏の変貌 — 「野分」の巻を支点とした源氏物語試論 —	河内山清彦
不知庵と「女学雑誌」 — 内田魯庵伝ノート(二) —	野村 喬
川瀬一馬教授の紫綬褒章受章を祝して	幸田 三郎
川瀬一馬教授著作論文略目録	
Language and the Ethical in the Thought of Kierkegaard	小原 信

『ハムレット』におけるキリスト教的感覚 — 第一独白を中心として —	菊地 裕
英語構文力テスト作成の試み — Chomsky の文法理論に沿って —	伊部 泰子

第22輯 (1968年11月)

平安時代の言語作品に見出される子供のことは使いについて	森野 宗明
吾妻鏡の成立に関する一試論 — 夢想告・託宣の記事をめぐって —	青木 孝
夕霧の役割 — 「若菜」から「幻」まで、その一 —	河内山清彦
大英博物館の古活字版	川瀬 一馬
民友社と不知庵 — 内田魯庵伝ノート (三) —	野村 喬
サローヤンの描く子供の世界	高島 敦子
「教育時論」における国民教育論の動向 — 明治教育政策史覚書 (二) —	林 三平
The Ethical and the Conceptual: the Case of Kierkegaard	小原 信
The Fall in Five Modern Novelists	P・J・パタソン
Lord Byronの文体	向山 泰子
侵入者と原住民 — イーディス・ウォートン論 (一) —	稲澤 秀夫
<i>Four Quartets</i> における思想とimageryについて	笠原 恵
言語心理学の一動向 (I)	米澤 俊治
外国教育の影響に関する比較研究	
— 助教制の北欧諸国への移入について — 覚え書 —	松崎 巖

第23輯 (1969年11月)

吾妻鏡構文上の一特色	
— 述語の上に、助字「於(オ)」をつけて補足語を提示する型	青木 孝
「聚文韻略」考	川瀬 一馬
『文学一斑』と『罪と罰』 — 内田魯庵伝ノート (四) —	野村 喬
作家への道 — Samuel Richardsonの <i>Familiar Letters</i> について	坂井 晴彦
カーライルのフランス革命におけるルイ十五世の描写	菊地 裕
ギリシアの影響を受けたByronの後期の詩	向山 泰子
既成上流社会への反抗の限界について — イーディス・ウォートン論 (二) —	稲澤 秀夫
言語問題と教育についての一比較考察 — フィンランドとノールウェーの場合 —	松崎 巖
短大における保育者養成のための音楽教育 — 幼稚園実習との関連において —	高橋 好子
青山学院女子短期大学学生の栄養摂取量 — 最近20年間における推移 —	野村万千代

第24輯 (1970年11月)

開学二十周年記念号によせて	大木金次郎
短期大学と学問研究	幸田 三郎
観阿弥の「花伝書」論	川瀬 一馬
「若菜」巻の発端 — 秋山虔氏の「方法」の検証 —	河内山清彦
謙譲の補助動詞「聞ゆ」と「奉る」	
— 一つの謙譲表現の発達段階説批判を中心に —	森野 宗明
吾妻鏡に多く用いられる「云々(うんぬん)」の訓と用法	青木 孝
マクベス劇の鳥、昆虫に関するフォーク・ロアについて	山口 義郎
Byronの <i>Childe Harold's Pilgrimage</i> に就て — 過渡期の作、「前篇」を中心に —	向山 泰子
過去への回帰 — イーディス・ウォートン論(三) —	稲澤 秀夫
E. M. Forsterの創作態度について — E. M. Forsterノート(1) —	坂井 晴彦
英米における「落花枝に帰る」の句	町野 静雄
フランクリン父子の不和についての一考察	黒野 清
Uno Cygnaeusとフィンランドの初等教育制度の成立過程	松崎 巖

第25輯 (1971年11月)

慶長初年刊雲母摺古活字版徒然草 — 徒然草の最古版本 —	川瀬 一馬
紫上の晩年(上) — 女性哀史的発想を排す —	河内山清彦
字鏡集白河本(都立日比谷図書館蔵)と応永写本(前田家尊経閣文庫蔵)との関係について	
— 和訓の下に散見する「正」という注記をめぐる —	青木 孝
ミラボーの描写に示されたカーライルの技法	菊地 裕
Vaughan's Concerns for Man	向山 泰子
『イーサン・フローム』をめぐる — イーディス・ウォートン論(四) —	稲澤 秀夫
現実とファンタジー — E.M.Forsterノート(2) —	坂井 晴彦
『細雪』『雪国』を通して見た日本語と英語の比較研究	高島 敦子
ジクロロイソシアヌル酸系漂白剤の漂白効果 — 洗剤添加の影響 —	阿部 幸子
比較教育学の課題と方法に関する一考察	
— 教育における文化的バイアスについての覚え書 —	松崎 巖

第26輯 (1972年11月)

「いはぬし」の現存最古写本について	川瀬 一馬
-------------------	-------

紫上の晩年（中）— 女性哀史的発想を排す —	河内山清彦
内閣文庫蔵北条本吾妻鏡訓点考 — 仮名の傍訓を中心として —	青木 孝
D. G. Rossettiの譚歌 — <i>The Staff and Script</i> の中世思想 —	向山 泰子
『真夏の夜の夢』の中に現れるフォーク・ロアについて	山口 義郎
リアリズム論をめぐる — イーディス・ウォートン論（五） —	稲澤 秀夫
『英文法汎論』のゆくえ	最上 雄文
国民性と翻訳 — 英文『細雪』に現われた日本人の特性 —	高島 敦子
言語と教育に関する比較教育学的一考察	
— N. Hans の the Linguistic Factor 再考 —	松崎 巖

第27輯（1973年11月）

日本書誌学と国語国文学	川瀬 一馬
紫上の晩年（下）— 女性哀史的発想を排す —	河内山清彦
二人称の〈オレ〉について — 鎌倉時代を中心に —	森野 宗明
吾妻鏡に見える「是（これ）」の文章法的機能について	青木 孝
玉塵抄の副詞（一）	出雲 朝子
翻訳家時代と『文学者となる法』— 内田魯庵伝ノート（五） —	野村 喬
セアラ・オーン・ジュエットのおかしみと自然	
— 「地方色文学」からの解放のために —	稲澤 秀夫
ヴィトゲンシュタインにおける言語と哲学	小原 信
クローディアスと末子相続制	山口 義郎
The Noble Othelloの復活	森泉 弘次
Catharine Beecherにおける「女性の真の職業」のための教育	E. J. クラーク
ĀNCRA, GÆSTAN など — 廃語点描 —	最上 雄文
夏目漱石と現代人の諸問題 — 英文『こころ』研究 —	高島 敦子
衣服設計を目的とした本学院の幼児・児童・生徒の身体計測結果	磯谷 藤枝
社会的移動と教育に関する比較教育学的一試論	
— スウェーデンのケースより — （1）	松崎 巖

第28輯（1974年11月）

吾妻鏡に見える「處（処）・所（所）」両字の使い分けについて	
— 接統助詞的に用いられた「處」字を中心として —	青木 孝
細川幽斎年譜稿（一）	林 達也

玉塵抄の副詞（二）— 擬声擬態語の語形について —	出雲 朝子
曾丹集中の「三百六十首」の成立時期について	北村 杏子
紫式部集の成立と流布（三）	
— 第二類古本系統の先行を論じて紫式部日記の首欠と日記歌の成立に及ぶ —	河内山清彦
エレン・グラスゴウ論	稲澤 秀夫
A Study in Intellectual Liberation	E. J. クラーク
<i>Macbeth</i> 試論 — 〈父と子〉の悲劇として（1）—	森泉 弘次
Byronの戯曲とGoetheの <i>Faust</i> と — I. <i>Manfred</i> —	向山 泰子
A Room with a View における若干の表現形式の特徴について	
— E. M. Forster ノート（3）—	坂井 晴彦
認識と行為 — 『死の床に横たわりて』論 —	佐藤 澄子
夏目漱石と現代の諸問題（2）— 英文『道草』研究 —	高島 敦子
非水系洗浄液中における汚染現象についての一考察	
— 基質への水及び界面活性剤の吸着の影響 —	阿部 幸子
海藻成分の研究（昆布のヨウ素）	西田 壽美
児童福祉施設の福祉機能について — 保育所保育をめぐる問題の検討その1 —	斎藤 謙
エリッヒ・フロムの愛の概念に関する若干の考察	鈴木 有郷

第29輯（1975年11月）

「庭訓往来（ていきんおうらい）」の語法（上）— 語彙・用字の分類とその特色 —	青木 孝
細川幽斎年譜稿（二）	林 達也
玉塵抄の国会図書館蔵本と叡山文庫蔵本について	出雲 朝子
古今集の誹諧歌について	北村 杏子
紫式部日記の形成 — 宇津保物語の誕生記事との関係を中心に —	河内山清彦
『ジョンソン』とその周辺 — 内田魯庵伝ノート（六）—	野村 喬
A Defence of Thomas Hardy against Lina Wright Berle's Criticism: With Special Reference to <i>Tess of the D'Urbervilles</i>	菊地 裕
<i>Macbeth</i> 試論 — 《父と子》の悲劇として（2）—	森泉 弘次
Byronの戯曲とGoetheの <i>Faust</i> と — II. <i>Cain</i> と <i>The Deformed Transformed</i> と —	向山 泰子
想像力と神話 — フォークナーの『アブサロム、アブサロム』の技法について	新美 澄子
夏目漱石における東と西 — 英文『草枕』研究 —	高島 敦子
シェイクスピアと人間嫌い	山口 義郎
青山学院女子短大生の栄養食品実態調査	西田 壽美
「ラインホルド・ニーバーにおける愛と正義の関係」	鈴木 有郷

第30輯 (1976年11月)

「庭訓往来(ていきんおうらい)」の語法(中)	
— 副言(副詞・接続詞・連体詞)について —	青木 孝
細川幽斎年譜稿(三)	林 達也
古今集の誹諧歌について — 承前	北村 杏子
朱雀院五十賀と密通事件をめぐって	
— 宇津保物語の影響、「六条院の崩壊」の問題など —	河内山清彦
父の死とその後始末 — 内田魯庵伝ノート(七) —	野村 喬
テス・ダーピフィールドの素朴な信仰 — キリスト教と異教の混合 —	菊地 裕
「リチャード三世」における犠牲者達についての一考察	森泉 弘次
バーナード・マラマッドの喜劇性	
— 近代リアリズムの一方としての彼の個性について —	新美 澄子
セルロース・ポリアミド粉末表面のぬれと界面活性剤の吸着について	阿部 幸子
明治期における保育者養成	阿部 智江
シュマルカルデン同盟の成立について	石引 正志
都市における成人講座受講者の学習行動に関する一考察	
— 新宿区における事例調査 —	岩崎 三郎
	林 三平
	幸田 三郎
“Reinhold Niebuhr and His Modern Critics”	Yugo Suzuki
W・B・イエイツにおける「愛」と「死」 — <i>The Death of Cuchlain</i> 覚書(I)	秋山 照男

第31輯 (1977年11月)

「庭訓往来(ていきんおうらい)」の語法(下)の(一)	
— 辞(助詞・助動詞・接頭語・接尾語)のうち助詞 —	青木 孝
源氏物語論のために明晰・自立・真実を — 藤井貞和氏の妄評に駁す —	河内山清彦
「リア王」における悪の問題(一)	森泉 弘次
Lord Byronの <i>The Prisoner of Chillon</i> の構成	向山 泰子
ヘミングウェイ覚え書き	新美 澄子
音と意味	山口 義郎
領邦君主と宗教改革 — ヘッセン地方伯フィリップの場合 —	石引 正志
W・B・イエイツにおける「愛」と「死」 — <i>The Death of Cuchulain</i> 覚書(二) —	秋山 照男
専門図書館の存立基 盤 — 組織体における情報需要の階層別考察 —	前園 主計
日本におけるキリスト教と社会主義 — 木下尚江の場合(一) —	鈴木 有郷

第32輯 (1978年11月)

「庭訓往来(ていきんおうらい)」の語法(下)の(二)止	
— 助動詞と接頭語・接尾語 —	青木 孝
紫式部日記成立論覚書 — 断片的記事竄入説・非首欠説批判 —	河内山清彦
仲文集の一考察 — 枕草子との関わりをめぐる —	北村 杏子
民友社との別れ — 内田魯庵伝ノート(八) —	野村 喬
内村鑑三における文体と論理	小原 信
ブレイクの神 — <i>Thy Fly</i> についての一考察 —	秋山 照男
The Sensual Attractiveness and Barbaric Sincerity of Alec d'Urberville Much Depreciated	Y. Kikuchi
ユダヤの百合 — Bernard Malamud のユニークな世界 —	新美 澄子
女性語と女性解放	高島 敦子
マイクロ波加熱による食品の硬化現象について — パンの硬化と結合水の変化 —	肥後 温子
	島崎 通夫
マルティン・ブツァーと宗教寛容の問題	石引 正志
日本におけるキリスト教と社会主義 — 木下尚江の場合(二) —	鈴木 有郷
青山学院女子短期大学における体力診断テストの結果に関する一考察(その一)	多和 はる
	板垣美恵子
リア王における悪の問題(二)	森泉 弘次

第33輯 (1979年11月)

「明衡往来(めいこうおうらい)」に見える「蒙求(もうぎゅう)」関係語彙について	青木 孝
鎌倉時代における文語ア・ハ・ワ行下二段活用動詞とヤ行下二段活用動詞の 活用の混乱について	出雲 朝子
「夕霧」巻の紫上の述懐をめぐる — 源氏物語・紫式部日記の女性観との関連 —	河内山清彦
藤原実方雑考	北村 杏子
God is Love から God <i>si</i> Love へ — E. M. Forster ノート(4) —	坂井 晴彦
《家族的》人間関係について — 英文『行人』研究 —	高島 敦子
マルティン・ブツァーと農民戦争	石引 正志
宗教社会学とドイツ精神史(1) — その一側面 —	柳父 圀近

第34輯 (1980年11月)

アブラハム・リンカンの信仰 — 苦悩と悲慘の間で (I) —	鈴木 有郷
「明衡往来 (めいこうおうらい)」の三巻本と二巻本系統諸本についての考察	
— 特に書状の排列と出入を中心として —	青木 孝
再びラ行四段活用動詞の音便形について	出雲 朝子
ブレイクの哲学 — <i>The Marriage of Heaven and Hell</i> について —	秋山 照男
欧米におけるイントネーション研究の動向	安倍 勇
トマス・ウルフの第一長編小説に於ける「死」について	宮内華代子
マラマッドの短編について	新美 澄子
大栗川 (東京都) 集水域の農業的土地利用の移り変わり	中野 和敬
高校生のソ連イメージ	渡辺 良智
宗教社会学とドイツ精神史 (2) — その一側面 —	柳父 園近

第35輯 (1981年11月)

アブラハム・リンカンの信仰 — 苦悩と悲慘の間で (II) —	鈴木 有郷
「消息」と「往来」との語義の区別について	青木 孝
ティーンエイジャーの可能表現	
— 着レル・出レルなどについて下接語からの検討を目的にした小さな調査から —	岡崎 和夫
ウェーバーにおける政治と学問 — ヴェルトフライハイトの問題として —	柳父 園近
欧米におけるイントネーション研究の動向	安倍 勇
「リチャード二世」とその史実的背景	森泉 弘次
No-No Boy に於ける日系アメリカ二世の苦悩	酒向登志郎
日英文化における女性語の位置	高島 敦子
大豆調理における浸漬時間と浸漬温度	高橋 文子
	橋本 慶子
ジャンバッティスタ・ヴィーコの《Verum》と《Factum》について	前之園幸一郎
幼稚園教育における保育形態の研究 — 二軸による保育活動の分析 —	志賀 智江
文化多元主義の成立 — H. M. Kallen 研究覚え書き (3) —	足立 康

第36輯 (1982年11月)

アブラハム・リンカンの信仰 — 苦悩と悲慘の間で (III) —	鈴木 有郷
----------------------------------	-------

光源氏像の変容 — 柏木・女三宮密通と光源氏の論理構造 —	藤本 勝義
「嘉保元年八月十九日前関白師実歌合」をめぐる — 源経信と信濃 —	北村 杏子
石川啄木研究資料稿	
— 歌稿ノート『一握の砂以後（四十三年十一月末より）』と投稿歌〈上〉 —	岡崎 和夫
スティーヴン・クレインの『赤色武功章』	
— 主人公、ヘンリー・フレミングにおける怯懦と勇氣に就いて —	高橋 俊行
〈c'est〉と〈il est〉の交替に関する覚え書き	鈴木 律子
シャーロットのために — H. ジェイムズの『黄金の盃』をめぐる —	細越 和子
「リチャード二世」の劇的言語 その一	
— ヘンリー・ボリングブロッックとトマス・モウブレイ —	森泉 弘次
ヘミングウェイの自然	新美 澄子
As if—clauseの語法について — 独立用法、その他 —	矢口 正巳
マイクロ波加熱にともなう脂質抽出率の低下原因について	肥後 温子
	島崎 通夫
ファシズムと教育 — 「学校憲章」の成立をめぐる —	前之園幸一郎
マス・コミュニケーションの効果の再検討	渡辺 良智

第37輯（1983年11月）

玉塵抄叡山文庫本におけるオ段長音の開合の混乱について	出雲 朝子
石川啄木研究資料稿	
— 歌稿ノート『一握の砂以後（四十三年十一月末より）』と投稿歌〈下〉 —	岡崎 和夫
H・ジェイムズの「視点」について — 『ねじの回転』の場合 —	芦原 和子
古今集歌「恋せじと御手洗川にせし襖…」をめぐる	
— 「新撰髓脳」「源氏物語」等の享受方法 —	藤本 勝義
ワーズワスの信念— <i>Immortality Ode</i> をめぐる —	秋山 照男
青山学院女子短期大学における体力診断 テストの結果に関する一考察（その二）	多和 はる
	吉成 啓子
	井狩 芳子
	鈴木美恵子
	大西千恵子
「リチャード二世」の劇的言語 その二 — リチャードとジョン・オヴ・ゴント —	森泉 弘次
生誕の家と湖畔の家 — ヘミングウェイの「家」に関する一試論 —	新美 澄子
言語観の日英比較 — 《事の端思想》対《ロゴス精神》 —	高島 敦子
セネカの教育思想 — Ad Lucilium epistulae morales を中心にして —	前之園幸一郎
所有権の経済分析（その1）	熊谷 彰矩

ゲートキーパーとゲートキーピング

渡辺 良智

第38輯 (1984年11月)

アブラハム・リンカンの信仰 — 苦悩と悲惨の間で (IV) —	鈴木 有郷
中務内侍日記論 — その世界と執筆契機 —	藤本 勝義
啄木の歌稿ノート『一握の砂以後 (四十三年十一月末より)』にみえる、マーク	
— 筑摩書房版全集にも反映されなかったひとつの事実について —	岡崎 和夫
メルヴィルの『ペリー・バッド』— ヴィア艦長の問題 —	高橋 俊行
「リチャード二世」の劇的言語 (その三)	
— 歴史劇における〈不安と恐れ〉の構造 —	森泉 弘次
<i>Dangling Man</i> の実存主義的解釈をめぐって	新美 澄子
古代ローマ人の子ども観 — <i>infans</i> 概念の成立をめぐって —	前之園幸一郎
所有権の経済分析 (その2)	熊谷 彰矩

第39輯 (1985年11月)

朱雀院論 — 源氏物語第二部を視座として —	藤本 勝義
藤原相如伝粗描	北村 杏子
志賀直哉・知と観念の指向性 — 初期作品の問題について —	栗坪 良樹
古今集、四三・四四番歌攷	岡崎 和夫
ヘンリー・ジェイムズの芸術家像	芦原 和子
機能的な英語教育・コンピュータ通信機能を利用した実践	三宅なほみ
	杉本 卓
天草版平家物語における句読点の用法	出雲 朝子
Adapting the Natural Approach to the College EFL Classroom in Japan	Sandra S. Fotos
「アテネのタイモン」試論 (その一) — タイモンの幻想について —	森泉 弘次
虚構の星 — <i>Mr. Sammler's Planet</i> 私論 —	新美 澄子
Applying Schema Theory in the Japanese College English as a Foreign	
Language Classroom: How to Comprehend More by Reading Less.	Jeanne M. Wolf
衣服設計のための身体計測法の検討	磯谷 藤枝
コルローディにおける〈子どものイメージ〉	前之園幸一郎
マルティン・ブツァーとアウクスブルクの宗教改革	石引 正志
明治における宅地所有の状況と貸地貸家経営 (その一)	加藤由利子

第40輯 (1986年11月)

記念号によせて	大木金次郎
「紀要」四十号を記念して	島崎 通夫
源氏物語の物忌 ― 紫式部と陰陽道信仰 ―	藤本 勝義
安法法師集の人々など	北村 杏子
芭蕉・徂徠の伝記 ― 内田魯庵伝ノート (九) ―	野村 喬
死と美と愛 ― 『死者たちの祭壇』をめぐって ―	芦原 和子
現代アメリカ神学の特徴と課題 ― ハーヴィー・コックスを手がかりに ―	鈴木 有郷
Attitude and Motivation	Colleen A. Bauman
市販洗剤中の陰イオン界面活性剤の生分解性	阿部 幸子
電子レンジと加熱むら	肥後 温子
	島崎 通夫
女子短期大学生の食生活 (1) ― 栄養素摂取に及ぼす居住形態と食習慣の影響 ―	石井 孝彦
Lリント酸の味覚	谷本 信也
明治における宅地所有の状況と貸地貸家経営 (その2)	加藤由利子
人物情報の処理におけるステレオタイプの影響	外山みどり
国際ニュースの構造	渡辺 良智

第41輯 (1987年11月)

存在と意識 ― «il y a» と hypostase ―	橋本 典子
源氏物語と陰陽道信仰 ― 天変地異、占・祓等をめぐって ―	藤本 勝義
『玉塵抄』の東大国語研究室蔵本について (一)	出雲 朝子
宮本輝・生と死の物語 ― 〈川三部作〉の成立について ―	栗坪 良樹
『くれの廿八日』と社会小説論の季節 ― 内田魯庵伝ノート (十) ―	野村 喬
「物語り」から「小説」へー ホーソーンとジェイムズ ―	芦原 和子
祝祭空間に生きるピカロ ― 『オーギー・マーチの冒険』 ―	新美 澄子
Alternatives in Teaching English Grammar:	
An Overview of Approaches and Some Suggestions for Lesson Design	Sandra S. Fotos
「バビロン再訪」試論	宮内華代子
「アテネのタイモン」試論 (その二) ― タイモンの覚醒と狂気について ―	森泉 弘次
ダイズ7Sグロブリンの精製	谷本 信也
15世紀フィレンツェにおける子どもと乳母による子育て	前之園幸一郎

第42輯 (1988年11月)

存在と主体の分離 — 対象知を超えて —	橋本 典子
源氏物語と憑霊現象 — 内的必然性と憑霊との二面性をめぐって —	藤本 勝義
『天稚彦物語』と七夕二星	出雲 朝子
家族と小説 — 横光利一の二、三の小説 —	栗坪 良樹
「成尋阿闍梨母集」本文批評のための基礎作業	岡崎 和夫
H・ジェイムズの作品における女性たち	芦原 和子
夏目漱石「倫敦塔」— 塔橋をめぐるレトリックの意味 —	加納 孝代
新聞の伊豆大島噴火災害報道 — 全国紙とミニコミ紙の内容分析 —	渡辺 良智
青山学院女子短期大学における体力診断テストの結果に関する一考察 (その3)	大西千恵子
	渡部かなえ
	二宮恵里子
評伝フォークナー (I) — 少年期と青年期 —	加島 祥造
15世紀フィレンツェの「残酷な母親」について	前之園幸一郎
幼稚園教育における「幼児理解」の研究	
— その1、子どもサイドに立った幼児理解について —	志賀 智江
戦前の東京における土地家屋の所有状況について	加藤由利子

第43輯 (1989年11月)

院長・理事長大木金次郎先生追悼	島崎 通夫
内在と超越 — 理性と夜警の意識 —	橋本 典子
藤原道長の「物の怪」観 — 「御堂関白記」と「小右記」等との記事比較を通して —	藤本 勝義
木村聖哉「戦時下の山本周五郎」への反論 — 作家像追及の視点をめぐって —	木村久邇典
昭和文学史構想に関する私見	栗坪 良樹
小説家と警世家の二面生活 — 内田魯庵伝ノート (十一) —	野村 喬
「成尋阿闍梨母集」本文批評のための基礎作業 (第III類)	岡崎 和夫
『使者たち』について — とり逃した人生のチャンス —	芦原 和子
死と再生 — 『雨の王ヘンダソン』の円環構造について —	新美 澄子
評伝フォークナー (2) — 青年期と壮年期 —	加島 祥造
マーチン・ルサー・キング Jr. — 黒人指導者への道 —	酒向登志郎
NNS-Initiated Modification and Self-Correction of Output: When Might it Happen?	Sandra S. Fotos
Language Transfer and Its Implication for Teaching EFL in Japan	Debra Mohri
十五世紀のフィレンツェ絵画にみられる子ども像について	前之園幸一郎

第44輯 (1990年11月)

レヴィナスと歴史	橋本 典子
キリシタン資料における「免許」の用法をめぐる	出雲 朝子
「成尋阿闍梨母集」本文批評のための基礎作業 (第IV類)	岡崎 和夫
昭和文学史の〈二重構造〉 — 本多秋五・磯田光一をめぐる —	栗坪 良樹
塔と海の彼方に — 村上春樹論 —	小林 正明
『學鐙』編輯と日露戦争の頃 — 内田魯庵伝ノート (十二) —	野村 喬
大鏡に於ける「物の怪」の方法と意義 — 栄花物語との叙述比較を通して —	藤本 勝義
H・ジェイムズの手法の現代性 (一) — ホーンソーンとの比較を通じて —	芦原 和子
喜劇としての人間 — ソール・ベロー『ハーツォグ』 —	新美 澄子
《ことのは》から《ロゴス》へ — 英語教育と日本語教育の接点 —	高島 敦子
テオフィールド・トレとボードレール (1)	馬淵 明子
新聞の社説にみる朝鮮	渡辺 良智
F・スコット・フィッツジェラルド論 — 「冬の夢」の中の「新しい女」 —	宮内華代子
文明化と日本 — 福沢諭吉と徳富蘇峰 —	梅津 順一
15世紀フィレンツェにおける一商人の〈子どものイメージ〉 — ジョヴァンニ・ディ・バゴロ・モレッリの『覚書』を中心にして —	前之園幸一郎
国際学習ネットワークを利用した言語・国際理解教育	三宅なほみ
	杉本 卓
戦前における借地上貸家経営について — 東京下谷区のM家の事例 —	加藤由利子
非イオン界面活性剤を配合した市販液体洗剤の生分解性	小林 泰子
	阿部 幸子

第45輯 (1991年12月)

《語ること (le Dire)》と《語られたこと (le Dit)》 — レヴィナスの言語論 —	橋本 典子
『玉塵抄』の東大国語研究室蔵本について (二)	出雲 朝子
「成尋阿闍梨母集」本文批評のための基礎作業 (第V類)	岡崎 和夫
二葉亭の死と魯庵の人生再航路 — 内田魯庵ノート (十三) —	野村 喬
H・ジェイムズの手法の現代性 (二) — ホーンソーンとの比較を通じて —	芦原 和子
世紀末の青い星 — ソール・ベロー『サムラー氏の惑星』 —	新美 澄子
LIKEとWANTの破格構文について	高野 嘉明
『福翁百話』と『青淵百話』 — とくに「市民的徳性」をめぐる —	梅津 順一
14世紀イタリアにおける都市学校の成立とその発展	前之園幸一郎
フロッピーディスクを用いた「ノート環境」の一例	

— 短い文章を互いに関連づけて書くために —	奥村 健一
ストレプトゾトシンで糖尿病にしたラットと	
自然発症高血圧ラットに対する調整豆乳飼育の影響	石井 孝彦
ゼインの酵素水解	谷本 信也

第46輯 (1992年12月)

死と時間構造 — レヴィナスの時間論 —	橋本 典子
「成尋阿闍梨母集」本文批評のための基礎作業 (第VI類) A	岡崎 和夫
人麻呂作品における「いにしへ」をめぐる — 万葉集二六六歌に即して —	西澤 一光
大正期デモクラシーの真髄 — 内田魯庵伝ノート (十四) —	野村 喬
源氏物語「竹河」巻論 — 光源氏的世界の終焉 —	藤本 勝義
H・ジェイムズのロマンス理論 (一) — 作品における心象風景 —	芦原 和子
ソール・ペローの生命観について — 短編集『モズビーの思い出』をめぐる —	新美 澄子
ラカンの精神分析理論における〈自我はひとりの他者である〉	
というテーゼのもと臨床心理学および教育学の含意についての試論	森泉 弘次
アンドレーエの『化学の婚礼』	中井 章子
「ええじゃないか」の民衆運動 (I)	渡辺 良智
オルスンとダンスの詩学 I 「テュアナのアポロニウス」を読む (1)	齋藤 修三
マーチン・ルサー・キング Jr. — 夢 —	酒向登志郎
幼稚園児の食生活	石井 孝彦
16世紀イタリアにおけるソマスキ修道会とその孤児にたいする教育活動	前之園幸一郎
「四都市信仰告白」の成立	石引 正志
日清戦後における徳富蘇峰と内村鑑三 — 近代日本の道徳的基礎をめぐる —	梅津 順一
漢訳西学書『博物通書』と「電気」の定着	八耳 俊文

第47輯 (1993年12月)

「成尋阿闍梨母集」本文批評のための基礎作業 (第VI類) B	岡崎 和夫
人麻呂「安騎野の歌」の方法 — 虚構の創出と時間の贈与 —	西澤 一光
偉大な読書人の晩年 — 内田魯庵伝ノート (十五) —	野村 喬
平安朝の物の怪の様態 — 「小右記」の記事を中心に —	藤本 勝義
H・ジェイムズのロマンス理論 (二) — 作品における心象風景 —	芦原 和子
アルチュール・ランボーにおける「人われを思う、[ゆえに] われはひとりの他者なり」	
(On me pense [donc] je est un autre) についての一考察 (一)	森泉 弘次

竹久夢二 — ハイカラからモダンへ —	鈴木すゝ江
行政法各論と教育行政法 — 各論位置づけの問題性と行政法各論の存在意義 —	中里 英夫
新聞の社説にみる一九八〇年代の韓国	渡辺 良智
存在・神・論の克服 — レヴィナス倫理学の展開 —	橋本 典子
青山学院女子短期大学における体力診断テストの結果に関する一考察 (その4)	大西千恵子
	中村 浩子
	小山さなえ
	市川 淑子
オルスンとダンスの詩学 II 「テュアナのアポロニウス」を読む (2)	齋藤 修三
マルコム X — 激怒 —	酒向登志郎
日本人学生の自己報告にみられる民族絶対主義的態度と	
民族相対主義的態度に関する調査	John E. Boylan & Jeanne M. Wolf
ラットのカルシウム、リン、マグネシウム出納に及ぼす調製豆乳食と牛乳食の影響	石井 孝彦
幼稚園教育における「幼児理解」の研究	
— その2 教育実習を通してみた幼児理解の変容効果 —	志賀 智江
15世紀イタリアにおける Studia humanitatis の成立について	前之園幸一郎
福沢諭吉における士族の「資力の変形」について — 伝統と近代のあいだ —	梅津 順一

第48輯 (1994年12月)

森鷗外『阿部一族』の組織論 — 〈殉死〉という一大興行の行方 —	栗坪 良樹
『天草版平家物語』における女性のことば	出雲 朝子
「成尋阿闍梨母集」本文批評のための基礎作業 (第VI類) C	岡崎 和夫
性差と主体を破壊するもの — 『土佐日記』小考 —	小林 正明
上代文献における「常世」をめぐる	西澤 一光
現代イギリスの女性作家たち	芦原 和子
シュタンツェル理論によるバーナード・マラマッド『アシスタント』の	
語りの構造分析	新美 澄子
アルチュール・ランボーにおける「人われを思う、[ゆえに] われはひとりの他者なり」	
(On me pense, [donc] je est un autre) についての一考察 (二)	森泉 弘次
道綱母の衣作り	鈴木すゝ江
教育裁判における教育権論の再検討 — 学力テスト最高裁判決を中心として —	中里 英夫
顔と無限者としての他者 — 超越性をめぐって —	橋本 典子
オルスンとダンスの詩学 III 「エジプトのマース」を読む	齋藤 修三
女子短大生の昼食前後の体温差に及ぼす料理と体組成の影響に関する一考察	石井 孝彦
イタリア・トスカーナ地方の聖人伝における子ども像	前之園幸一郎

洪沢栄一における武士道と実業道 —「実験論語」の人物評論を通して— 梅津 順一

第49輯 (1995年12月)

映画『カリガリ博士』の刺激と衝撃 — 日本表現主義序説 —	栗坪 良樹
古代物語の視点と心中表現 — 源氏物語・宇津保物語等をめぐって —	藤本 勝義
石川啄木論 (その壺 序章)	岡崎 和夫
「文化侵略」か、「人間解放」か — 新しい英語教育の課題 —	高島 敦子
竹久夢二 — 童画・童話をめぐって —	鈴木すゝ江
教育法の解釈方法 (一)	中里 英夫
他者と倫理学 — 絶対的他者を中心に —	橋本 典子
専門図書館のサービス	前園 主計
Sustainable Development Feminist Perspective (Part One)	LANDES, Haru
女子短大生の身体組成別自覚的健康度と食習慣	石井 孝彦
魚肉の軟化現象とコラーゲン	谷本 信也
	高橋 秀子
フィレンツェにおけるインノチェンティ捨て子養育院の創設とその発展について	前之園幸一郎
徳富蘇峰とキリスト教 — 「自己審査」を通じた試論 —	梅津 順一
知識空間の定量化に関する研究ノート	菊池 純一
ジャン＝バティスト・グルーズの「セプティムス・セヴェルス帝とカラカラ」について	
— デイドロの美術批評を通して —	大野 芳材

第50輯 (1996年12月)

紀要50輯を祝して	深町 正信
新世紀の知の状況に向けて	栗坪 良樹
紫式部の見た暦 — 長徳二年具注暦をめぐって —	藤本 勝義
戦後文学五十年の地平	栗坪 良樹
『鼠の草子絵巻』諸本の画中詞における人称詞と敬語 — 性差の観点を中心に —	出雲 朝子
石川啄木論 (その式) — 『悲しき玩具』の表現特質 —	岡崎 和夫
古今集序注と十二世紀の言説空間 — 書物・歌学・王権をめぐって —	西澤 一光
『彼岸過迄』 — 物語の物語批判 —	佐藤 泉
開かれた社会のための英語教育	高島 敦子
自律基底的リベラリズムとその問題点	
— H・ヘイリー『医療パターンリズムの限界』をもとに —	河見 誠

教育法の解釈方法 (二)	中里 英夫
「ええじゃないか」の民衆運動 (II)	渡辺 良智
『重学浅説』の書誌学のおよび化学史的研究	八耳 俊文
レヴィナスと沈黙 — ブランショ論を中心に —	橋本 典子
大豆白絞油と水素添加パーム油の脂肪酸組成、ヨウ素価、 酸価、過酸化物価及び見かけの消化率に及ぼす揚げの影響	石井 孝彦
公共住宅の更新と居住者	加藤由利子
さまざまな自己信念と抑鬱傾向の関係について — 法則定立的尺度によるセルフ・ディスクレパンシー理論の検討 —	工藤恵理子
18世紀フィレンツェのインノチェンティ 養育院における捨て子の養育について	前之園幸一郎
ポーランドの学校教育における民族舞踊の系譜 — 学習指導指針をもとに —	大西千恵子
ヴァトー、作品と社会 (1)	大野 芳材

第51輯 (1997年12月)

寺山修司 — その俳句論	栗坪 良樹
石川啄木論 (その参) …三行詩の文体形成=三行詩人啄木の胚胎…	岡崎 和夫
本居宣長論	西澤 一光
『近代』と「日本近代」夏目漱石の/による再検証』	佐藤 泉
『枕草子』の衣裳表現	鈴木すゝ江
新自然法論における実践的原理	河見 誠
現象学から倫理学へ — レヴィナスに於ける近接性と超越性 —	橋本 典子
市販衣料用洗剤の洗浄力と有機汚濁負荷	阿部 幸子
女子短大生の昼食前後の体温差に及ぼす身体組成の影響	石井 孝彦
イタリア・ルネサンス期における伝統的家族の解体と子どもへの新しいまなざし	前之園幸一郎
ベートルのキリスト教福祉 — ナチ安楽死作戦への抵抗と福祉実践展開 —	今関 公雄
子ども観の変遷と社会的養護	横堀 昌子
能力に関する自己評価が自己の能力に関する情報収集行動に及ぼす効果の 測定の方法論の検討 — 自己評価と課題の診断性の認知の関係 —	工藤恵理子
ヴァトー、作品と社会 (2)	大野 芳材

第52輯 (1998年12月)

寺山修司短歌的映像・映像的短歌 — 歌集及び映画『田園に死す』について —	栗坪 良樹
---------------------------------------	-------

三浦綾子氏の評伝的作品における一人称談話構成の採用について	
…〈母を書く私〉から〈母になる私〉…	岡崎 和夫
文学史の記述とその社会的機能 — 戦後国語教科書の日本近代 —	佐藤 泉
ヘンリー・ジェイムズにおけるイギリス帰化への旅 (一)	芦原 和子
アルチュール・ランボーにおける「人われを思う、[ゆえに] われはひとりの他者なり」	
(On me pense, [donc] je est un autre) についての一考察 (3)	森泉 弘次
中国の日常食と行事食の意識について	橋本 慶子
臓器移植法と現代日本社会	河見 誠
M資金伝説	渡辺 良智
道路瑕疵と過失相殺 (二) — スリップに関する事故をめぐって —	信澤久美子
死と《存在とは別様に》 — ジャンケレヴィッチとレヴィナス —	橋本 典子
廃食用油を利用した手作り石けんの性状および環境影響について	阿部 幸子
高校生の自覚的健康度と食習慣	石井 孝彦
比内鶏のコラーゲンより見た肉質	谷本 信也
幼稚園教育における幼児理解と研修モデル	志賀 智江
フィレンツェ・インノチェンティ捨て子養育院の創設初期における子どもたち	前之園幸一郎
新興住宅都市における子育ての実態及び子育て支援の現状と課題に関する一考察	
— 多摩ニュータウンにおける子育てに関する実態調査から —	浅見 均
内集団・外集団に対する自分の意見・態度の投影プロセスの実証的検討	
— 集団間の意見分布推定と集団間関係 —	工藤恵理子
青山学院女子短期大学における体力診断テストの結果に関する一考察 (その5)	大西千恵子
	伊坪有紀子
	鈴木美恵子

第53輯 (1999年12月)

芥川龍之介一九二二・一 — 日本文化論の文体について —	佐藤 泉
村上春樹と映画	栗坪 良樹
作品探検・中島みゆき (その一)	
詞が小説的世界をかかえこんでいるという感触について	岡崎 和夫
マスコミが事件をつくった — 「イエスの方舟事件」の報道をめぐって —	渡辺 良智
レヴィナスに於ける外在性 — ユマニズムと超越 —	橋本 典子
ラットにおける頻回揚げ油の見かけの消化率と血清成分に及ぼす影響	石井 孝彦
幼児の初期統語法の発達過程	伊部 泰子
ルネサンス期フィレンツェにおける子ども像をめぐる諸問題	前之園幸一郎
幼児の宗教心について — キリスト教信仰からの一考察 —	今関 公雄

現行幼稚園教育要領下に於ける「園行事」のあり方についての一考察

— 幼稚園に於ける園行事「運動会」を中心として —

浅見 均

オーストラリアの児童養護と我が国の課題

横堀 昌子

脅威を受けた次元（領域）とは無関連な次元における下方比較

— より柔軟な下方比較像へ —

工藤恵理子

本学学生の体力・健康意識・体脂肪率測定の結果報告

森下 春枝

磯部 桂

下坂 佐知

川口 和泉

第54輯 (2000年12月)

開学五十周年と紀要第五十四輯の発行を祝って

深町 正信

短期大学開学五十周年に思う

阿部 幸子

文学は生き延びられるか— 又は高等教育とは何か —

栗坪 良樹

作品探検・中島みゆき（その二）—「詞」の連続、「詞」の重層—

岡崎 和夫

エイブラハム・ジョシュア・ヘッシェルと

マーティン・ブーバーにおけるハシディズム理解の差異（一）

森泉 弘次

武井武雄のお洒落な動物たち（一）

鈴木すゝ江

苦痛と苦悩と安楽死

— 重度の身体障害者ケリー・ナイルズの事例を手がかりに —

河見 誠

モーリス・ズンデルの形而上学

橋本 典子

異界巡りの旅路— E. M. フォースターの「イタリア」観の変容 —

石田美穂子

カプサイシンと食塩摂取が自然発症高血圧ラットの血圧に及ぼす影響

石井 孝彦

杜仲投与によるアユの肉質改良

谷本 信也

目鳥 幸一

高橋 周七

塩蔵クラゲの加熱条件とテクスチャー

松本 美鈴

福永 淑子

「幼児の初期統語法の発達過程」の背景となった諸理論

伊部 泰子

『ピノッキオの冒険』における人間論— いのちの誕生をめぐる —

前之園幸一郎

保育所問題の福祉論— 措置から契約の激動の中で —

今関 公雄

保育者の資質に関する一考察— 保育現場から見た保育者の資質 —

浅見 均

福祉現場におけるグリーンワーク 実践の可能性と必要性

横堀 昌子

ヴァトー『シテール島の巡礼』（ルーヴル美術館）再考

大野 芳材

第55輯 (2001年12月)

中島みゆき論 …「靴」「あしあと」「跣」についての物語…	岡崎 和夫
エイブラハム・ジョシュア・ヘッシェルと	
マーティン・ブーバーにおけるハシディズム理解の差異 (二)	森泉 弘次
武井武雄のお洒落な動物たち (二)	鈴木すゝ江
いのちと身体 —「からだとしての身体」から考える安楽死の条件—	河見 誠
ポール・リクールの倫理学 — 記述・物語・命令の構造 —	橋本 典子
モンテッソーリ教育思想の展開とチッタ・ディ・カステッロ	前之園幸一郎
今日の保育所問題 — 保育需要の多様化と育児休業 —	今関 公雄
ティーム保育についての一考察	浅見 均
ヨーロッパ中世はキリスト教社会か? — ドリュモア説の検討 —	石引 正志
今和次郎の「民家研究」と「朝鮮調査」	黒石いずみ
原因帰属の自己奉仕バイアスに及ぼす理由思考の効果	
— よく考えることで自己奉仕バイアスは強まるか —	工藤恵理子
聖書の女性に関する視点 (I)	
— 旧約聖書の中の女性に対する研究に基づいた現代へのメッセージ —Robert M. Terhune	

第56輯 (2002年12月)

中島みゆき論	
— 共同体の違和の構図にかかわって〈エレーン〉を読み換える —	岡崎 和夫
A・J・ヘッセルの哲学思想におけるマイモニデスの意義	森泉 弘次
グラント將軍の『回想録』に就いて	高橋 俊行
ダンテ・ゲイブリエル・ロセッティのエクフラーシス詩と世紀末美学の形成	松村 伸一
岡本かの子のお洒落	鈴木すゝ江
「新しい市民社会」の法哲学を求めて：	
共和主義的法理論、再帰的政治理論から compassion としての自然法論へ	河見 誠
「表現」教育の社会化について (1) — はじまりとしての「ドラマの授業」—	堀切 和雅
子供たちはどこへ消えるのか — 都市伝説生成の背景を探る —	渡辺 良智
影論 (スキアロジー) — リクールの哲学への方位を求めて —	橋本 典子
日本人を《考える葦》にするための言語教育	高島 敦子
洗浄力に及ぼす浴比の影響	阿部 幸子
成長期ラットにおける肝臓および血清脂質に及ぼす食用油脂摂取の影響	石井 孝彦
モンテッソーリ教育における宗教性とカトリックからの批判をめぐって	前之園幸一郎
ファミリー・ソーシャルワークの理論的枠組みと実践に関する一考察	横堀 昌子

フランス外でのエコール・デ・ボザール

黒石いづみ

行為者はなぜ観察者の対応バイアスを過大視するのか

— もう一つの説明可能性 —

工藤恵理子

聖書の女性に関する視点 (II)

— 新約聖書の中の女性に対する研究に基づいた現代へのメッセージ —

Robert M. Terhune

第57輯 (2003年12月)

明治期における女学生のことば

出雲 朝子

中島みゆき論・付篇 — ほんとうのふるさとを希求する旅の論・素描 —

岡崎 和夫

二一世紀の労働権 — 生存権としての労働権から人格的生のための労働権へ —
『三四郎』と美禰子の装い

河見 誠
鈴木すゑ江

「表現」教育の社会化について (2)

— 表現教育のリーダーはどこからやってくるのか? —

堀切 和雅

平和論序説 — 絶望から道徳の萌芽へ —

橋本 典子

英語の進行相による行為解説機能 — 進行相の意味のネットワークから —

湯本久美子

ウロココラーゲンの可溶化

谷本 信也

人間へのはるかなる旅 — 「ピノッキオ」の可能性 —

前之園幸一郎

司書の専門性評価:資格認定制度と司書課程

大谷 康晴

第58輯 (2004年12月)

文学観と世界観の境界 — 感性・感受性の問題 —

栗坪 良樹

「かもめ」の誕生・「つばめ」の位境 — 中島みゆき論ノート —

岡崎 和夫

フェミニズムと自然法論の協力関係

— オルタナティブな法と倫理の枠組みを求めて —

河見 誠

Breakの自他交替について — Stage model metonymy の提案 —

湯本久美子

「表現」教育の社会化について (番外編)

— 実践記録・幼稚園での野外演劇ワークショップ —

堀切 和雅

福祉の豊かさの一考察 — A施設反対運動の遺産として —

今関 公雄

教育実習による幼児理解の促進と変容

志賀 智江

マリア・モンテッソーリの自己選択

前之園幸一郎

本学学生の体格測定・新体力テスト・体脂肪率測定・健康意識調査に関する考察

森下 春枝

菅野 聡子

木島美穂乃
遠藤 歩美

第59輯 (2005年12月)

中原中也の第一詩集表題名称候補およびその決定時期の問題	岡崎 和夫
イングランド啓蒙と女性 — 研究視覚と問題設定 (前編) —	梅垣 千尋
客観的実質的価値提示の必要性	
— ドイツにおける法の正しさの議論展開をもとに —	河見 誠
IT-cleftsの参照点構造と焦点推移	湯本久美子
The Anatomy of a Syllabus	Joseph Phillips
キリスト教福祉論の基盤 — 福音の神学の視点から —	今関 公雄
イギリス高等教育における戦略的計画	鈴木 俊之
マリア・モンテッソーリの障害児教育への視座	前之園幸一郎
日本近代期における「郷土」創生へのシンクロニシティ	黒石いずみ
司書養成と「教養」	大谷 康晴

第60輯 (2006年12月)

青山学院女子短期大学紀要第六十輯の刊行を祝して	深町 正信
「紀要」第六十輯を記念して	前之園幸一郎
中島みゆき論の基底について	岡崎 和夫
イングランド啓蒙と女性 — 研究視角と問題設定 (後編) —	梅垣 千尋
人格共同展開とガン告知 — 「豊かな生の展開」を支える法の役割 —	河見 誠
魂の不安・体の痛み — 17世紀ニューイングランドにおける身体感覚と宗教 —	荒木 純子
The Eternal Momentのケース・スタディ :	
E. M. フォースターのCosmopolitanismに関する考察	山田美穂子
「～に走る」・「～に歩く」のメトニミー構造	湯本久美子
Toward an Open-source EFL Textbook	Joseph Phillips
成功・失敗時の自己呈示とリスク重要度、性格特性、社会的適応の関係性	小林 知博
学歴社会における学歴	渡辺 良智
児童手当と子育て支援	今関 公雄
大学のコーポレート・ガバナンス (1)	
— イギリスにおけるコーポレート・ガバナンス論の展開と大学のリスクマネジメント —	鈴木 俊之

マリア・モンテッソーリと祖国イタリア	前之園幸一郎
1920年代初頭のロシアにおける飢饉と乳幼児の生存・養育環境	村知 稔三
図書館貸出ログによる短期大学学生の学習行動分析(その一)	大谷 康晴
	宮田 雅智

第61輯(2007年12月)

十八世紀イングランドにおける啓蒙の多元性 — ジェンダーの視点から —	梅垣 千尋
鬼束ちひろの詞作品における二人称詞の探求	
— 「貴方」と「あなた」 — 鬼束ちひろ論序説	おかざきかずお
英語中間構文における認知主体の経験に基づく探索活動	湯本久美子
Language Death-The Loss of Linguistic Diversity	Joseph Phillips
「新しい女性」の誕生とその時代的背景	
— マリア・モンテッソーリと大学生活 —	前之園幸一郎
平成不況と構造改革の経済史的考察 — 2つの経済学とイギリス産業革命 —	秋富 創
「気象学」語源考	八耳 俊文
21世紀へのポール・リケールの解釈学の位置づけ	
— 『他者としての自己自身』(Soi-meme comme un autre) を手懸りに —	橋本 典子
学校図書館の情報教育的機能	大谷 康晴
	宮田 雅智
What Happens in the Process of Revision?	
— A Comparative Analysis of the First and Second Drafts of Students' Essays	黒岩 裕

第62輯(2008年12月)

源氏物語と五節の舞姫(補遺)	藤本 勝義
鬼束ちひろの詞作品論的研究のために	
— デビュー直後、鬼束最初期12か月の探求 —	おかざきかずお
現在分詞構文における Metonymic motivation	湯本久美子
The Use of OMR Software for Data Collection and Collation	
in a College Setting	Joseph Phillips
Vincenzo Belliniにおける Bel Cantoの世界 — 考察	小泉由美子
大学のガバナンス試論 — エージェンシー理論を手がかりにして	鈴木 俊之
ミッション・スクールの女子教育に関する一考察	渡辺 良智
20世紀における「自由貿易帝国主義」	

—「第1次世界大戦期イギリス通商政策構想」を素材として—	秋富 創
社会開発における戦略的コミュニケーション	関谷 雄一
社会教育法等の一部を改正する法律の成立と日本の司書養成教育	大谷 康晴
中学生の攻撃性と教員イメージとの関連	田中 志帆

第63輯 (2009年12月)

十八世紀末イギリスにおける女性たちの政治意識	
— デヴォンシャー公爵夫人の選挙活動をめぐって —	梅垣 千尋
鬼束ちひろ論 ファーストアルバム《インソムニア》の組成についての探求	
— 詩作品間の有機的関連について —	おかざきかずお
E. M. Forster's Literary Disguise: A Reading of A Room with a View	山田美穂子
THIS/THATの空間認識：参照点と対比から	湯本久美子
Caxton's Legacy: A Million Words	Joseph Phillips
本学家政学科1年生は環境用語をどの程度知っているか？	廣田 道夫
	宮川 香織
	渡部 徳子
幼稚園教育の現状と課題 — 子ども・親・プリサービスの観点から —	志賀 智江
英語習得の新たな枠組み 英語習得＝英語学習＋英語使用	黒岩 裕
ニジェール農村の土地紛争と解決への道筋	関谷 雄一
本学学生の体格・体力等に関する調査報告	森下 春枝
	野口 麻実
	高塚 美香
	功刀 梢

第64輯 (2010年12月)

脳死・臓器移植をめぐる公共的議論と法の役割	河見 誠
詞的情景論・(1) —「海辺の別れ」という詞場—	
ミュージシャンを読むためのストラテジとしての詞作品研究の課題	おかざきかずお
個人語彙規模の測定に関する一考察	高野 嘉明
EFL Wordlists: The Need for a Modern Learner Lexicon	Joseph Phillips
女子短期大学生の環境意識	梅澤香代子
	宮川 香織
	廣田 道夫

日清戦争開戦前夜の思想状況 — 金玉均暗殺事件をめぐる一考察 —	小林 瑞乃
バイオ燃料に関するアメリカの動向について	信澤久美子
英国産業連盟と1920年代不況 — デフレーションと構造調整 —	秋富 創
身体毀損の噂に見る社会の表象	渡辺 良智
先行経験が意思決定における後悔に及ぼす影響	武田 美亜
現代ロシア社会における子どもの養育をめぐる諸問題	村知 稔三
習得の時短のための救急蘇生法 トレーニング・プログラムの構造解析	渡部かなえ
ピースメーカーとキリスト教	シエロ マイク
フォーマル・スキーマとしての5文型と英文理解	黒岩 裕
食事場面での母親の行動認識と、感情対処方略としての食行動が、 摂食障害傾向に及ぼす影響	田中 志帆

第65輯 (2011年12月)

夢と奇跡と自立 — ディズニープリンセスの歌にみるジェンダー —	荒木 純子
ゴールズワージー再読 (1) — 『フォーサイト家物語』における絵画の役割 —	山田美穂子
Sound-emission path resultative の “skewing” — 動詞最小主義と動詞最大主義の間を繋ぐメトニミー —	湯本久美子
An Investigation into The Effect of Targeted Vocabulary Learning Using a Spaced Repetition Flashcard System on TOEIC Scores	Joseph Phillips
新聞の東日本大震災報道	渡辺 良智
スウェーデン・フィンランドと日本の子育て支援 — 出生率増減の原因と結果 —	渡部かなえ
知的障害の不可視性が障害の自己認識の形成にもたらす影響 — 知的障害のある人の語りに基づく一考察 —	杉田 穂子
青山壁画プロジェクト — 実施報告およびパブリックアートの観点からの考察 —	趙 慶姫
荒れている学級の動的学校画 — 小・中学生の描画特徴の比較・検討 —	田中 志帆
開発現場における援助と自助努力促進のジレンマ — アフリカの現場 —	関谷 雄一

第66輯 (2012年12月)

鬼束ちひろ論 — 鬼束ちひろの表出史における第11シングル作品〈育つ雑草〉の位置 正義・福祉・愛 — 代理出産から「法の正しさ」を考える パラドクスとしての福音 ～ セバスティアン・フランク『パラドクサ』をめぐる 英語受動態の補文節主語	おかざきかずお 河見 誠 中井 章子 湯本久美子
--	-----------------------------------

総力戦の文化史とフランス革命の世界史的位置 — 文化史の危険性と可能性 —	西願 広望
定時制高校での教育相談、スクールカウンセリングにおける今日的課題	田中 志帆
20世紀ロシア子ども史研究の意義 — ケリーの著書をめぐって (上) —	村知 稔三
アクション・リサーチによる子どもが自由にのびのびと楽しんで 動きをつくりだす身体表現の授業研究	渡部かなえ

第67輯 (2013年12月)

M資金伝説・再考	渡辺 良智
Ways of Being: Ancient Religious Sensibilities and Contemporary Social Structures in Japan	シエロ マイク
「オルター・グローバリゼーション」と「教養としての経済学」の可能性	秋富 創
キャリア教育による女子学生の意識変化に関する一考察 — 女子短大生へのライフコース観調査から —	宇田 美江
母娘関係における透明性錯覚	武田 美亜
中年期の知的障害のある人の自己認識の変化 — 生涯発達の観点からみて —	杉田 穂子
ロシア社会における孤児の現状と生活施設, 里親家庭, 後見・保佐の役割	村知 稔三
保護者アンケートにみる幼児の海辺の自然体験活動で大切なことと その実現のための課題	渡部かなえ 海野 義明
大学の不正に対する高等教育システムの対応とその課題 — ロンドン・メトロポリタン大学を事例に —	鈴木 俊之

第68輯 (2014年12月)

東日本大震災と原子力安全神話・地震予知神話・パニック神話	渡辺 良智
Transformative Technology and the Classroom	Joseph Phillips
フォード・マドックス・フォード『パレードの終わり』の再評価: 絶滅する“Englishness”の自画像	山田美穂子
現代に於ける新たな連帯性 (solidarity) の意味 — ユルゲン・ハーバーマスの連帯性の概念を手懸りに —	橋本 典子
「オランダモデル」から見る第2次安倍内閣の雇用・労働規制改革 — 日本版「ワッセナー合意」の提案 —	秋富 創
アフリカ人作家・画家がつくった児童書の日本での受容について	さくま ゆみこ
水質に関する学生実験の結果について	廣田 道夫

宮川 香織
石神優紀子
渡部 徳子

Три эпохи в истории России и трансформация система дошкольного воспитания:
от РСФСР к современной России и нынешнее состояние

村知 稔三
森下 春枝
市川 順子
高塚 美香
藤田 実季

本学学生の体格・体力と健康意識に関する報告 — 2010年度～2014年度—

ニュージーランドの子どもの健康とプロジェクト・エネジャイズによる
保健体育の授業への介入

渡部かなえ

第69輯 (2015年12月)

戦後日本における五木寛之の位相 — 植民地朝鮮, 引揚げ, 「デラシネ」—
語彙規模の測定方法とその問題点

小林 瑞乃
高野 嘉明

Toward a Vocabulary Standard for EFL Textbooks

Joseph Phillips

21世紀の新しいヒューマニズムを求めて

— 国際法を超えたコスモポリタニズムへ —

橋本 典子

経営学基礎教科書に関する研究 — 2006年から2015年までの32冊をめぐって —

宇田 美江

送り手の顔文字使用頻度が顔文字を付与した謝罪文の印象に及ぼす影響

武田 美亜

養護問題を抱え施設入所した知的障害者の障害の自己認識

— 知的障害のある人の語るライフストーリーを通して —

杉田 穂子

青山学院女子短期大学における全天日射及びB領域紫外域日射観測について (短報)

廣田 道夫

小児の道具操作の適応と学習プロセスの事例研究

渡部かなえ

統合保育における発達支援のあり方についての一考察

— アスペルガー症候群と診断された幼児の他者とのつながりを通して—

荘司 紀子

第70輯 (2016年12月)

青山学院女子短期大学紀要第70輯刊行を祝う

八耳 俊文

Механизмы поддержки дошкольного воспитания в современной России:

Действительное состояние и задачи

村知 稔三

本学学生の「背筋力」測定と授業効果の検討 — 2010年～2016年の調査 —

森下 春枝

藤田 実季

高塚 美香

坂下真理明

Authentic Texts and Extensive Reading:

Vocabulary Coverage of A New General Service List

Joseph Phillips

女性思想家の「不在」

— ジェンダーの視点からみた日本の西洋思想史研究とその方法（前編）

梅垣 千尋

イギリス文学史とL・M・モンゴメリ —「書く女性」の物語—

山田美穂子

20世紀初頭のロサンゼルス日本人移民社会における離婚方法とジェンダー秩序

後藤 千織

オンライン・ゲームと法律

信澤久美子

第2・3次安倍内閣の成長戦略と教育改革（1）

— 国立大学の「機能別分化」をめぐる—

秋富 創

タイにおける外来食の受容実態調査— 日本食に着目して—

宇都宮由佳

2016年度夏期モンゴル・ゴビ調査報告

鈴木 宏節

知的障害のある人の「障害の自己認識」についての文献的考察

杉田 穂子

里親支援の現状と課題に関する一考察

山口 敬子

ジェンダーの視点からみる「源氏物語絵巻」の女性表象

— 鈴虫第一段の女性像の解釈を中心に—

成原 有貴

Защита прав ребенка в современной России: Текущая ситуация и проблемы

村知 稔三

第71輯（2017年12月）

Print or Pixels: A pilot Study of Online Graded Reading

Joseph Phillips

何の食べ物かそして誰が“sweet”なのか？— 英国食物文化と言語慣習から—

湯本久美子

女性思想家の「不在」

— ジェンダーの視点からみた日本の西洋思想史研究とその方法（後編）

梅垣 千尋

第2・3次安倍内閣の成長戦略と教育改革（2・完）

— 国立大学の「機能別分化」をめぐる—

秋富 創

女子学生の理想のライフコースと進路選択に対する自己効力の変化

— 青山学院女子短期大学のキャリア科目におけるアンケート調査から—

宇田 美江

奈良 堂史

杉原 亨

スクーバダイビングに関する心理学的研究の現状と展望

武田 美亜

ベラルーシ子ども学研究序説（1）— 人口動態の特徴—

村知 稔三

俳優育成における声の基礎教育

— 平成28年度文化庁新進芸術家海外研修報告を中心に—

松山 立

第72輯 (2018年12月)

More Print or Pixels: A Further Examination of Online Graded Reading 見えないものに目を注ぐ:	Joseph Phillips
ウルフとフォースター作品における「写真」のイメージと効用	山田美穂子
南北戦争後のアメリカにおける賃金労働とジェンダー (前)	
～ 売春論争からみる賃金労働批判の限界 ～	後藤 千織
社会的弱者・マイノリティ研究についての一視角 (1)	
— グローバリゼーション・国民統合・中間団体 —	秋富 創
日本の起業家の熟達プロセスに関する一考察	
— 日本経済新聞「私の履歴書」のライフヒストリー分析より —	宇田 美江
ベラルーシ子ども学研究序説 (2) — 乳幼児と保育をめぐる現状 —	村知 稔三
本学学生の体格・体力と健康意識に関する最終報告 — 2015年～2018年 —	森下 春枝
	坂下真理明
	志村 舞
	楠本 葉奈
幼児期における第二言語習得に関する研究— 幼児教育の視点から —	五十嵐淳子

第73輯 (2019年12月)

ウルストンクラフトのフェミニズム — 理性・徳・知識における平等 —	梅垣 千尋
南北戦争後のアメリカにおける賃金労働とジェンダー (後)	
— 売春論争からみる賃金労働批判の限界 —	後藤 千織
女子学生の法学教育について — 青山学院女子短期大学での20年あまり —	信澤久美子
社会的弱者・マイノリティ研究についての一視角 (2・完)	
— グローバリゼーション・国民統合・中間団体 —	秋富 創
企業の成長段階に応じた創業型経営者に対する開発者の支援のプロセス	
— 発達のネットワークに焦点をあてて —	宇田 美江
調理実習で発生した食中毒の傾向	半田 彩実
出産前にダウン症候群確定診断を受けた後「妊娠継続」の選択をもたらす	
要因の検討 — Aさんの事例から —	杉田 穂子
カザフスタン子ども学研究序説 (1) — 概要と人口動態 —	村知 稔三
戦後発刊期の児童雑誌に現れた東アジア	西山 利佳